

平成 23 年度

大雪山国立公園エコツアーリズム基盤整備基本計画策定業務

報告書

平成 24(2012)年 3 月

環境省北海道地方環境事務所

目 次

○本編

第 1 章 業務概要

1-1 業務目的・項目・箇所	1-1
1-2 業務期間	1-2
1-3 業務の流れ	1-3
1-4 業務実施体制	1-4

第 2 章 業務対象地の現況調査

2-1 地域資源の現況	2-1
(1) 上川地区の地域資源	2-1
(2) 東川地区の地域資源	2-5
(3) 山岳地域の地域資源	2-11
2-2 権利制限関係	
(1) 自然公園法及び森林法	2-13
(2) 文化財保護法	2-15
(3) 鳥獣保護法	2-15
2-3 利用状況	
(1) 業務対象地全体の利用状況	2-16
(2) 上川地区の利用状況	2-20
(3) 東川地区の利用状況	2-22
(4) 山岳地区の利用状況	2-23
(5) 利用状況に関するまとめ・考察	2-29
2-4 ツアー等の実施状況	
(1) 上川地区	2-31
(2) 東川地区	2-34
(3) ガイド実態及び利用者の動向	2-38
(4) 他地区における事例収集	2-47
2-5 利用施設等の状況	
(1) 調査概要	2-49
(2) 集団施設地区内の状況	2-50
(3) 歩道の状況	2-52
(4) その他施設の状況	2-53
(5) 施設に関するまとめ・考察	2-54

2-6 アンケート及びヒアリング

- (1) アンケート調査結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-55
- (2) ヒアリング結果概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2-59

第3章 課題と今後の方向性及び対策

- 3-1 エコツーリズムの基本的な考え方・・・・・・・・・・・・ 3-1
- 3-2 上川地区の課題と方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-3
- 3-3 東川地区の課題と方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-7
- 3-4 今後の取組みについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3-11

第4章 エコツーリズム支援のための整備基本計画

- 4-1 エコツーリズムを推進するための施設整備の考え方・・・・・・・・ 4-1
- 4-2 環境省の取り組み（直轄整備等）に関する基本的な考え方・・・・・・・・ 4-3
- 4-3 直轄対象事業の整理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-4
- 4-4 拠点施設の検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-10
- 4-5 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-21
- 4-6 中期計画（実施スケジュール）・・・・・・・・・・・・・・ 4-22
- 4-7 概算事業費（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4-23

第5章 事業効果に関する分析手法の検討

- 5-1 直接的効果
 - （観光の活性化・地域資源の素質の保全）の分析・・・・・・・・ 5-1
- 5-2 間接的効果（地域活性化）の分析・・・・・・・・・・・・ 5-4
- 5-3 フォローアップ計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・ 5-7

第6章 意見交換会及び懇談会の開催

- 6-1 第1回大雪山国立公園におけるエコツーリズム推進の可能性
に関する意見交換会（上川地区）・・・・・・・・・・・・ 6-1
- 6-2 第2回大雪山国立公園におけるエコツーリズム推進の可能性
に関する意見交換会（東川地区）・・・・・・・・・・・・ 6-3
- 6-3 第3回大雪山国立公園におけるエコツーリズム推進の可能性
に関する東川・上川地区合同懇談会・・・・・・・・・・・・ 6-4

第 1 章 業務概要

第1章 業務概要

1-1 業務目的・項目・箇所

(1) 業務目的

大雪山国立公園は、北海道のほぼ中央に位置する日本最大の国立公園であり、高山帯及び風致景観の優れた森林及び特異な地形地質や自然環境を有している。また、北海道の最高峰「旭岳」を主峰とする大雪山連峰を中心とした登山利用や、層雲峡、勇駒別、天人峡をはじめとする大雪山山麓の豊富な温泉利用等、豊富な自然環境を活かした利用もされている。

このような中、平成15年には、エコツーリズム推進会議の中で5つの推進政策がとりまとめられ、平成20年4月からはエコツーリズム推進法が制定された。また平成22年には生物多様性国家戦略が策定され、その中でも、自然とのふれあいが位置づけられるなど社会的にも自然と直接ふれあう体験への欲求が高まりつつある。

しかしながら、現状においては、大雪山一体でのエコツーリズムが図られる体制になっておらず、また山岳部を中心とした国立公園と山麓の丘陵地帯の観光施設との連携や協力も十分とはいえない状況である。さらに、国立公園内においては、利用施設自体の老朽化も進みつつあり、再整備の主体と管理の主体の整理ができていないことから自然とのふれあい体験が十分に提供できていない状況となっている。

このことから、大雪山国立公園におけるエコツーリズムを推進する上で必要な仕組みの構築とそれに伴い必要な整備を明らかにするための基本計画策定業務を実施するものである。

(2) 業務項目

本業務の項目を表1-1-1示す。

表 1-1-1 業務項目

業務項目	単位	数量
①現況把握	式	1
(a)与条件の整理	式	1
(b)現地調査等	式	1
②課題の把握及び対策の検討	式	1
③基本方針等の検討・策定	式	1
④整備基本計画等の検討・策定	式	1
(a)導入すべき施設の整理	式	1
(b)拠点施設に関する検討	式	1
⑤事業効果に関する分析手法の検討・策定	式	1
⑥検討会等開催に対する補助業務	式	1
⑦打合せ協議	式	1
⑧報告書作成	式	1

(3) 業務場所

本業務の業務対象地は、上川郡上川町及び東川町である。

業務対象地を図 1-1-1 に示す。

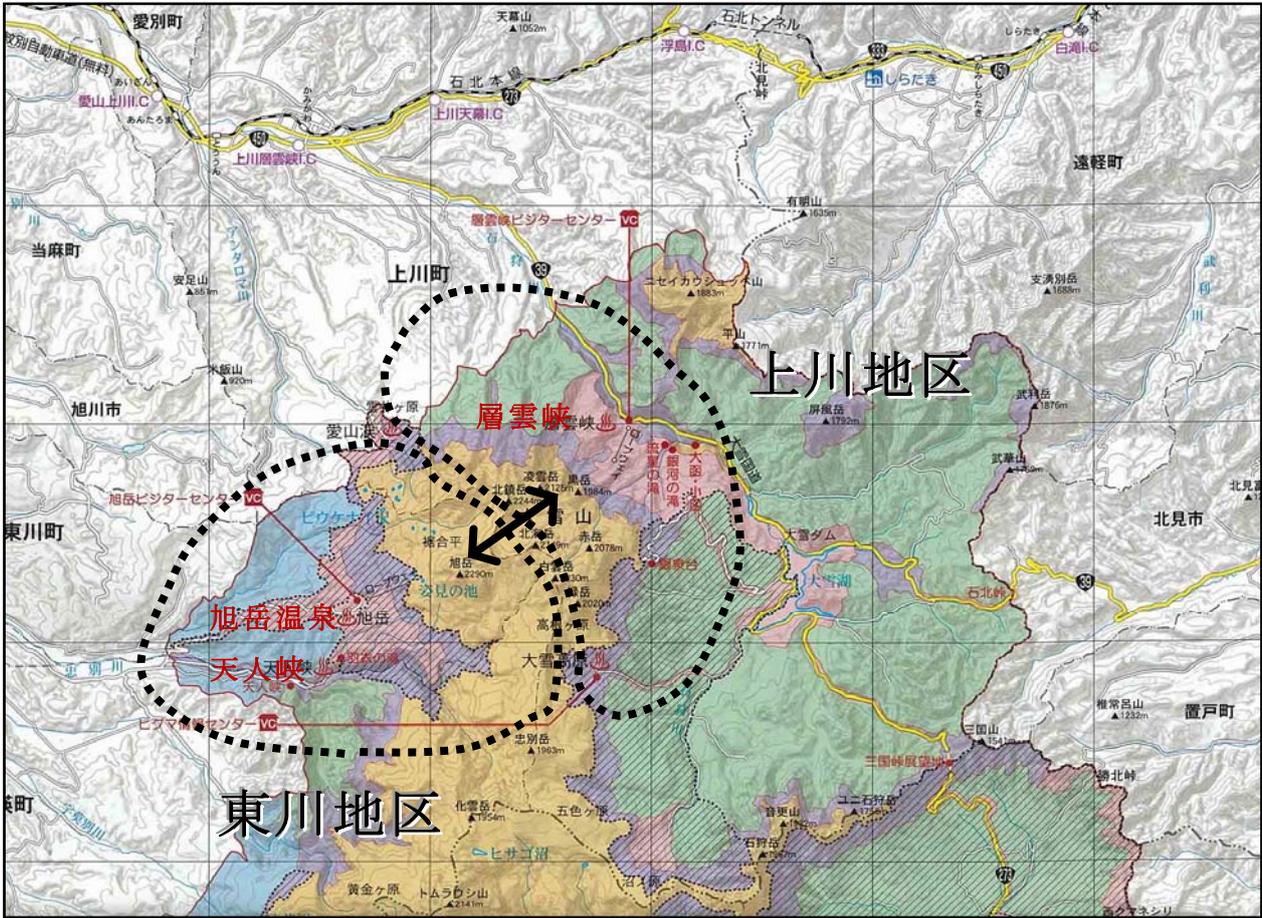


図 1-1-1 業務対象地

1-2 業務期間

平成 23 年 9 月 5 日 ～ 平成 24 年 3 月 30 日

1-3 業務の流れ

本業務の流れを図 1-3-1 に示す。

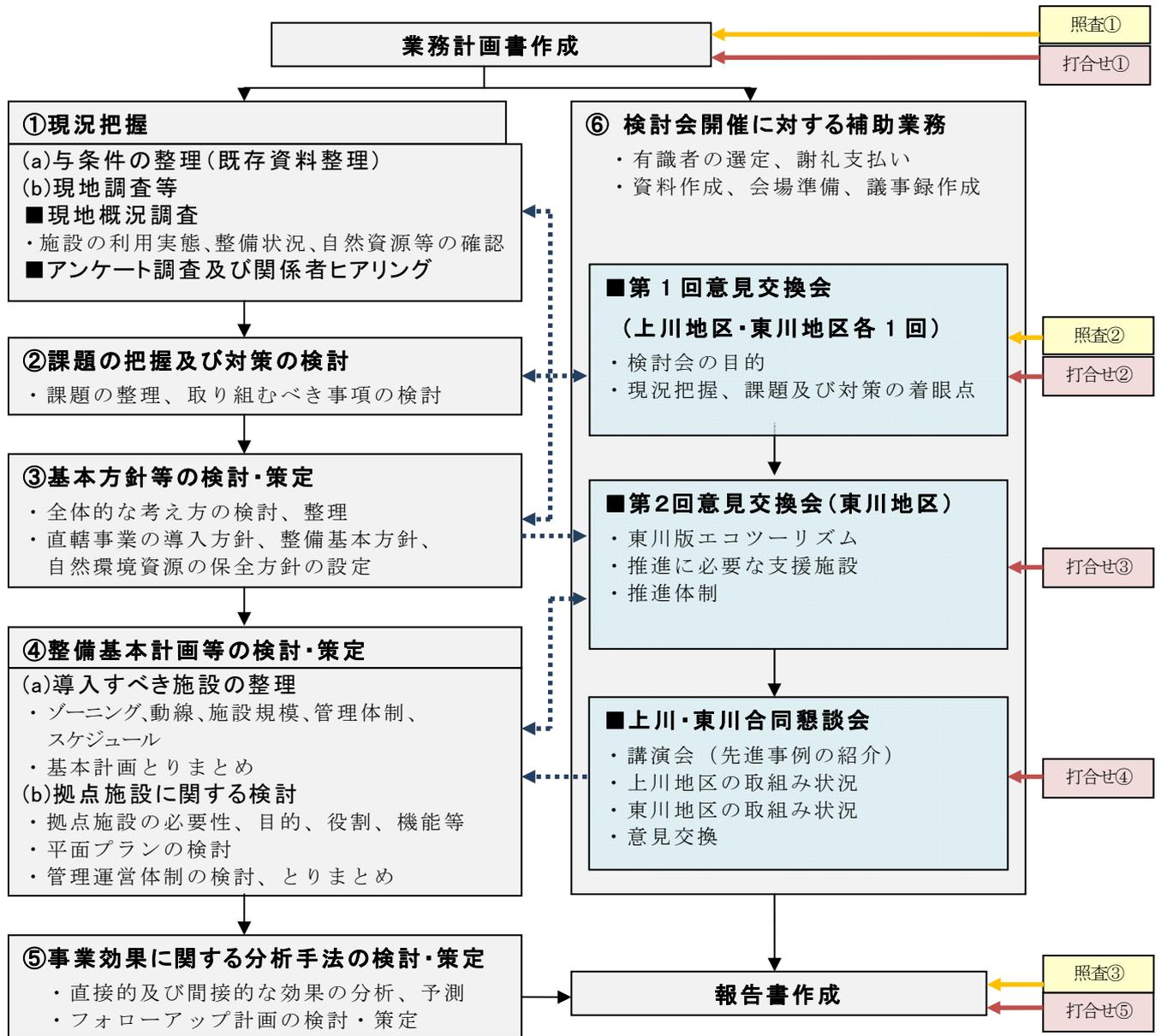


図 1-3-1 業務フロー

1-4 業務実施体制

本業務の実施体制を表 1-4-1 示す。

表 1-4-1 業務実施体制

	氏名	所属・役職	担当分野
管理技術者	堀内 康介	社会計画グループ街づくり・緑地チームチームマネジャー	統括
照査技術者	鶴田 卓士	地球環境グループ環境チームリーダー	照査
担当技術者	川端 郁子	地球環境グループ環境チームチームマネジャー	課題の把握及び対策検討 基本方針等の検討・策定 整備基本計画等の検討
	檜山 智嗣	地球環境グループ環境チーム主任	現況把握（与条件の整理、 現地概況調査） 検討会開催に対する補助
	西田 征人	地球環境グループ環境チームマネジャー	現況把握（アンケート調査） 事業効果に関する分析手法 の検討
	岩本 麻未	地球環境グループ環境チーム	現況把握（現地概況調査） 作業全般の補助
	亀山 勇悦	地球環境グループ環境チーム	現況把握（与条件の整理、ア ンケート調査）、報告書作成
	小井沼路代	地球環境グループ環境チーム	現況把握（アンケート調査）